

「旧アルファビゼン跡地活用基本構想」に対する意見募集結果の公表について

「旧アルファビゼン跡地活用基本構想」に対して、市民の皆様からご意見を募集した結果、寄せられたご意見・ご提言とそれに対する市の考え方については下記のとおりです。ご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

意見募集期間：令和2年4月30日（木）～令和2年6月5日（金）

意見募集結果：47件（9名）

	寄せられたご意見・ご提言 (ご提案の趣旨を損なわないよう、原文のまま記載しています。ご理解いただけるようお願いいたします。ただし、誤字等については一部修正しています。)	市の考え方
1-1	<p>P2 1. 背景</p> <p>これまでの状況を述べているが、その都度最善の策を講じながら実現に至っていない。今回こそ途中で断念することなく、基本理念を満たす施設の建設を実行して頂きたい。</p>	<p>これまでの試みは、現有建物の利用が前提でしたが、利用目的に応じた改修に、多額の費用を要すること、建物の構造的な問題、民間利用に際しては採算性などに課題があり事業者が見つからないなど、断念せざるを得ませんでした。このたびのプロジェクトはこうした経緯をふまえ、現有建物を解体撤去し、新たな施設整備を目指すものです。</p>
1-2	<p>P2 1. 背景</p> <p>平成27年度にリノベーションを断念したとあるが、理由が漠然としており納得性に欠ける。本年2月の第2回説明会の回答も同様である。跡地利用を推進するに当たり、更新・改修費用や構造耐力の不足などをできるだけ具体的に示し、わかりやすく説明してほしい。跡地利用についてより多くの理解を深め取り進めることが重要だと感じる。</p>	<p>平成27年度に市庁舎等公共施設へのリノベーションが検討され、市で改修基本計画を策定し、数種類の活用方法を提案しました。検討内容は各種マスコミにも大きく取り上げられ、市役所、市議会、市民も交え活発な議論がありました。その当時設計サイドとして課題と認識されたものが耐震改修でした。移転した庁舎を防災拠点に指定するのであれば、現状の構造では大幅に耐震強度が不足するため、抜本的な構造補強が必要となることでした。この調査には多額の解析費用を要するため、基本計画では対応できない部分で、防災拠点とすることを前提に実施設計すると、改修費用が増額するだけでなく、建築として成立させる難易度が高いことが想定されていました。また、改修案に対して、市内の各種団体の代表者で構成された意見聴取会でも議論がなされましたが、移転改修ではなく新築とする意見が多数という状況でした。</p>

		こうしたことをふまえて、旧アルファビゼンへの庁舎移転が断念されたものです。当時の検討内容について、別添資料を参照してください。
1-3	<p>P8 施設整備（案）末尾</p> <p>敷地の制約から駐車場が充足できないことは理解するが、基本理念を具現化するのは「ハコモノ」ではなくそこに集う利用者である。</p> <p>利用しやすい環境づくりを並行して行わないと“交流・賑わい”を持続する上で支障となることが懸念される。できれば基本設計、実施設計の段階で駐車場に対する周辺低未利用地等の活用策を具体的に示してほしい。</p>	<p>P8で記載のとおり、駐車場の必要性について認識しておりますし、ご指摘の内容はごもっともといえます。しかしながら、さほど広くもなく不整形な敷地であり、必要台数を確保することは、施設整備の内容にもよりますが、敷地の過半を駐車場用地に充てることにもなりかねません。またこの場は自家用車を利用しない、高校生、中学生、小学生の利用も見込んでいます。こうしたことから、敷地内へは車椅子用の駐車場の設置にとどめ、近傍の低利用地の活用を検討するものです。低利用地の多くが民間所有であり、借地するにせよ買収するにせよ所有者のご協力が必要であるため、期限を切って具体的な内容をお示しすることは出来かねます。</p>
2-1	<p>P6 基本理念</p> <p>基本理念を達成するため「教育のまち備前」に必須な施設は、図書館の充実と考える。</p> <p>図書館は「知の拠点」として“いつでもみんなが集え、市民が主役となって利用できるまちづくりの新しい拠点”に最もふさわしいと考える。</p> <p>具体的には、現在の市民センター内図書館の拡張整備は可能なのか、不可能なら新たに施設も設ける必要がある。</p> <p>新たに図書館を設ける場合、現在の市民センター内図書館のスペースをどう活用するのか、まず検討が必要と思う。</p> <p>旧アルファビゼン跡地の活用構想は、前記施設と重複せず、相互に補完しあうものとするべきである。</p>	<p>跡地活用で設置する施設は、既存の市民センターと全く別物とするのではなく、それぞれが役割を分担し、また機能を補完しつつ、賑わいや、文化・伝統を育むも場となることを目指しています。とはいえ、旧アルファビゼン跡地で図書館整備を行わないことから、「知の拠点」として図書館がどうあるべきか具体的な検討が必要と考えます。この点につきましては、教育委員会で図書館整備検討委員会が設置されており、この場での議論と連携して基本設計を進めてまいります。</p>
2-2	<p>P6 基本方針 上から3つ目の■</p> <p>■「市民の学習活動や地域文化創造の交流拠点となる施設」は図書館に集約すべきと考える。</p>	<p>2-1で述べましたとおり、役割分担と機能の補完に配慮し、相互の施設の有機的な連携を目指します。</p>
2-3	<p>P8 A案</p> <p>多目的ホール200席、音響効果は別として、</p>	<p>「リフレセンターびぜん」は勤労者を中心とした市民の福利厚生施設ですが、多様な市民が</p>

	「リフレセンターびぜん」の集会室が200席程度は可能で駐車場も十分ではないか。	利用するには、その所在地から少なからず制約があると考えます。新たな施設整備では、広場を中心として、多目的に使える各種機能を組み合わせ、高齢者から子供まで、多様な主体が集い憩える施設を目指しています。「リフレセンターびぜん」との役割分担は十分に可能と判断しています。
2-4	P8, 21 駐車場 本施設に駐車場は必須、駐車場が隣接していることが絶対条件で概算事業費が金額不明なら、項目を設けるべきで、駐車場を設ける費用を除外して、計画の可否を決定することはできないのでは。	1-3でも述べましたとおり、この場で十分な駐車場を確保することは困難と考えています。多様な主体の利用を想定するなか、駐車場の隣接が絶対条件になるかは議論のあるところと考えます。制約のある敷地、限られた予算のなか、バランスの取れた基本設計策定を目指します。
2-5	P10, 13, 16 緑地・木 茶臼山の緑を取り込むことは出来るのでは。	茶臼山公園の緑との繋がり、空間を演出するうえで重要な要素となり得ます。具体的な対応のイメージは、基本設計において検討してまいります。
3-1	P10, 11 A案 外でのイベントに備えた土足で利用できる戸外トイレの設置。	広場の機能として必要なものと考えます。基本設計において検討してまいります。
3-2	P10, 11 A案 駐車場の増設 多目的ホールは252席あるのにA案は13台の駐車場しかない。4人乗り合わせて来ても52人である。最低でも25台分は欲しい。そうでなければ多目的ホールが活かせない。	1-3及び2-4で述べたとおりです。
3-3	P10, 11 A案 2階学習室に本を置いて欲しい。学習だけの機能であれば来る人は限られる。	市民センター図書館との役割分担や、図書館が持つべき機能との調整が必要と考えます。2-1も参照してください。
3-4	P10, 11 A案 交流・賑わいを活発にするため喫茶の設置をして欲しい。	交流・賑わいを活発にするために有効な機能ではありますが、事業者の有無が実現性のポイントとなります。事後であってもこうした機能を付与できる施設計画を、基本設計において検討してまいります。
4-1	片上の地に作る新しい市の設備は、地元民の将来使用する若い人達の意見を聴いて頂き将来役にたつ建物を、お願いします。	ご提言のとおり、若年層の意見は重要で、こちらから指名するなどして、ご意見を伺うことも検討しましたが、意見交換会やパブリックコメントで、お名前、顔を出されて自発的な意見

		<p>をいただいた場合と同列に取り扱うことは、著しくバランスを欠くものと考えます。こうしたことから、備前緑陽高校の1・2年生を対象としたアンケート調査を実施し、これに合わせて、授業の一環としてワークショップも実施しています。かなり飛躍した意見もありましたが、市からの問いかけに真摯に対応していただき、貴重な意見を多数いただいています。十分とは云えないかもしれませんが、こうした意見を参考に基本計画を進めてまいりたいと考えています。</p>
4-2	<p>現在ロードサイクルされる人が増えています。片上は、片鉄の終着駅がありました。その跡地が自転車道として県により、整備されています。これを有効に活用し、県内外からも、多くの人が集まれる場所にして戴きたい。</p>	<p>ご指摘のとおり、「片鉄ロマン街道」は稀有な地域資源だと認識しています。新たな施設にはサイクルステーションとしての機能を設け、サイクリストの利便性を向上させ、賑わいの一助にしたいと考えております。</p>
4-3	<p>久々井運動公園の、宿泊場所等に活用できる施設。</p>	<p>民間事業者との兼ね合いや、運営管理の問題もあります。対応は困難と考えます。</p>
4-4	<p>災害時の避難場所。（流川沿いの避難は、年寄りには、危険です）</p>	<p>この場所を災害避難場所に指定することはありませんし、避難場所は従来から指定されている施設に変わりありません。この場所に持たせる防災機能は、災害が発生し終息後であっても、指定避難場所を暫時継続する必要がある場合、過密を緩和する、炊き出しをするなど、指定避難所の機能補完が役割と考えています。</p>
4-5	<p>公園の植栽管理は市で実施する前提で考えてください。（年寄りが多く農業経験も少ない）</p>	<p>整備する施設は備前市の公共施設となりますから、管理主体は備前市となります。直接管理するか、委託管理するかは今後調整することとなります。</p>
5-1	<p>P7 3.基本方針の考え方と具体的手法 3段目「市民の学習活動や地域文化創造の交流拠点となる施設」 市民の生涯学習や高校生の自習スペースなど検討されているのであれば、図書を中心とした施設にすべきと考えます。いい図書館には多くの人が集まります。 瀬戸内中央図書館を平日昼過ぎに訪れた時、高齢者と若者がそれぞれ半々35人以上の</p>	<p>2-1で述べたとおりです。</p>

	人がいました。天井が高く、静かで落ち着いたいい環境です。広い駐車場があるので気軽に行けます。	
5-2	P7 4. 共通機能 車椅子駐車場について 車椅子駐車場だけでなく、今の時代何するにも一般駐車場は必要です。敷地の4分の1は駐車場にすべきです。	1-3及び2-4で述べたとおりです。仮に敷地の4分の1を駐車スペースとしたとしても20~30台程度にとどまり十分ではなく、いずれにせよ近傍で駐車場を確保する必要があります。このことから、敷地内には車椅子用の駐車場を確保し、これ以外の自家用車等については、近傍の低利用地の活用を優先的に検討しているものです。
6-1	報告書P6にまとめられている基本理念、5つの基本方針はすばらしいと思います。 さらにP7の具体的手法はよく考えられていると思います。	本パブリックコメントで頂いたご意見等をふまえ、基本設計を進めてまいります。
6-2	緑化公園的な部分は都会のようなビル群の中であれば必要ですが、本地域では背景に格好の低山があるので、要求度は下がります。	この場所を交流、賑わいの拠点に育てるためには、来訪者の視点をどのようにとらえるかが重要と考えています。町並みの魅力を高めるためには、新たな施設と町並みとの連続性や周辺環境との調和はもとより、建物の意匠や外構整備は重要な要素となります。居心地のよい空間整備を目指しています。
6-3	イベント広場については、きわめて限られた期間のために、他を犠牲にしてまでスペース確保をする要求度は下がります。イベント時には周辺道路を歩行者専用にしてスペース確保を図るべきと考えます。したがって、バリアフリーを考慮した障害者用駐車スペースの確保を優先し、臨時歩行者専用道路を取り込んだ多目的広場を設計すべきと考えます。	そもそものプロジェクトの目標は「交流・賑わいのある広場」の整備です。6-2でも述べましたように、居心地のよい空間整備を目指しており、ご提言の内容もふまえて、基本設計を進めてまいります。 さらにイベント広場について申せば、イベント開催だけではなく、人々の憩いの場として、散歩や軽運動、休憩等、多目的に利用していただけるものと考えております。
6-4	これからの公共建築物は災害時の避難所を十二分に考慮すべきであります。その中でもトイレ、洗面所、シャワールームについては200人規模が数ヶ月避難生活できるぐらいにしていきたい。	4-4で述べたとおりです。この施設に防災機能を付与したとしても、この施設だけですべての災害及び災害後に発生する事象に過不足なく対応することは困難です。よって、既存の指定避難場所と連携し、これを補完することが大きな役割になると考えます。
6-5	施設の愛称を市民、備前市に通う高校生、勤務している方々に公募して、〇〇広場とか	今後検討してまいります。

	△△プラザとか早くつきたいものです。	
7-1	<p>P2 1. 背景</p> <p>解体反対の方を納得させるため、解体しない場合の概算（施設改修や維持管理の費用）明示を</p> <p>平成 27 年度にリノベーションを検討したということですが、施設改修や維持管理の費用はどのくらいなのでしょう。市民の中には解体に 6 億もかけるなら、活用した方がいいと言う人もいます。そういう方達を納得させられるような比較できる金額を示して欲しいと思います。採光確保の問題があるということですが、美術品鑑賞、音楽の練習などの活動に利用するなど活用内容によって利点にもなりうるのではと思います。公共施設として求められる構造耐力不足であれば、民間利用で以前のような高い賃料や解体費用の積み立てを含むような契約ではなく、運用コストだけで活用する形も残っているようにも思います。1 階のみ利用するなど一部利用から活用していく方法もあるという意見も聞きます。3 案の金額提示はありますが、解体しない場合の概算を示し、市民を納得させられる資料を提示していただきたいと思います。（プロポーザル決定の資料では 4 階部分を残す案も出ていたと思います。市民の納得を得るためにも全面解体案になった経緯・理由を市民に伝えていただきたいと思います。）</p>	<p>1-1をご参照ください。</p> <p>また、プロポーザルでの提案についてですが、このたびのプロポーザルは設計事務所の技術力を評価するもので、提案で示された意匠や構造を評価・採用するものではありません。もちろん効果的な提案であれば、新たな施設計画に取り入れる場合もあります。</p> <p>基本構想として 3 案を提案していますが、これに至る過程のなかでは、多くの廃案があります。こうした検討をする際、概算事業費を算出するなどの細かな手順をふむことはありません。これは作業が膨大になることと、経費が大幅に増額することによります。こうした検討のなかでは、建築として成立するか、大まかに目標とする事業費を満たすか、基本理念・基本方針を満足するか、などが判断基準となり、高度な専門性と経験が求められる作業です。プロポーザルで提案された一部既存建物の利用は、建築として成立させづらい面があること、設計の自由度が大幅に制約されること、さほど経費の節減にならないことなどから採用に至らなかったものです。</p>
7-2	<p>P2 1. 背景</p> <p>東洋大学提案の公民連携プロジェクトは進んでいるのか？</p> <p>「アルファ跡地活用構想」の検討を本格化させるのに参考にしたという「地域再生支援プログラム報告書」を読ませていただきましたが、これは、真備の水害が起きる前のものであり、南海トラフ地震に対する防災計画があまり考慮されていないものではないかと</p>	<p>ご承知のとおり PPP は公民連携と云われるもので、民間の資本やノウハウを活用し、効率化やサービスの向上を目指すものです。これを具体化する手法には PFI（BOT、BOT 等）やコンセッション等あります。官の負担を前提としたものが多く、効用が官の負担を上回れば目的を達成できたと云えます。とかく成功事例が大きく取り上げられますが、民間はコストにシビアで、官民でのリスク分担で合意に至らない場合</p>

	<p>思いました。ましてや、コロナ対策が求められる今、この報告書をもっと活用し、修正する必要があると思いました。「PPPユニット」なる組織横断したプロジェクトを作ることが提案されていますが、現在はどうなっているのでしょうか？ 数値などから分析した内容は、注目すべき部分が多くありましたが、地元住民の意見も取り入れながら修正し、備前市全体や各地を融合させ生かし合いながら発展させる方向を考えていただきたいと思います。</p>	<p>が多くあります。民間は利益を得ることができると判断すれば、PPPなどに時間をかけず直接投資します。アルファについて言えば、これまでも民間事業者を公募してきましたが、応募はありませんでした。また、活用にあたり、平成17年に市が市民、各種団体、学識経験者などに呼びかけ設置した「アルファビゼン検討委員会」から、「全額利用者負担の原則、一棟貸しが基本」との答申を受けており、以降市の基本方針とされてきました。こうしたこともふまえて、PPPの導入は困難であり、市としてメリットは少ないと考えています。</p>
7-3	<p>P2 1. 背景</p> <p>東洋大学提案の賑わいを生み出す場としての広場整備に合致しているのか？（「駐輪場・駐車場も設け、利便性を高めるもの」を）</p> <p>人口減少し、合併してきた中で、公共施設を40%削減し、行政コストを下げていく必要があるとの指摘から、今回の解体し、魅力ある「賑わいを生み出す場としての広場整備」をしていくことに賛成します。報告書にあるように「駐輪場・駐車場も設け、利便性を高めるもの」にしてください。周辺に駐車場確保を考えているとしても、建設施設内に最低限の駐車場は必要。備前市民どなたに聞いてもその意見は口にされています。</p>	<p>駐車場については1-3、2-4、5-2、7-5で述べたとおりです。駐輪場については、サイクルステーションの設置をめざしていることもあり、確保したいと考えています。具体的には基本設計で検討を進めてまいります。</p>
7-4	<p>P10～12 A案</p> <p>多目的ホールは市民センターがあるので必要ない。屋内広場で代用できる。</p> <p>市民への意見聴取会が行われても、議会で見解が出されてもその反映がされていないように思い残念です。多目的ホールは市民センターがあるので必要ないという意見を言われた方がいました。（市民センターの駐車場をクラウンの跡地を市で購入して、イベント時に駐車場が足りなくて困るようなことを無くしてください。そうすれば、アルファ跡に多目的ホールは不要になります。）多目的ホールは、可動式の座席が設けられたもの</p>	<p>現在基本構想で各案に付与している機能は、各種団体からの要望、2回実施しました意見交換会、及び高校生アンケートによっています。多目的ホールもこうしたご意見を受けて、付与する機能の一つとして提案しています。ホール内のしつらえは様々あり、決定しているものではありません。今後の進め方は2-1、2-3も参照してください。各種団体からの要望については、別添資料を参照してください。</p>

	<p>ではないと聞きましたが、その形であれば屋内広場で代用できると思います。</p>	
7-5	<p>P10～12 A案</p> <p>2階建てで自走式の駐車場にして収容台数を確保して集しやすい施設に</p> <p>駐車場は今の市民の生活状況を考えると必須だと思います（市民は高齢者が多く、離れた所に車を置いて徒歩で移動する形の利用は考えられません。）。A案の多目的ホールを無くし、2階建てで自走式の駐車場にして収容台数を確保して集しやすい施設にすることを提案します。駐車場としての場所は、イベント等の開催時には、模擬店出店場所などにも転用できます。自走式で2階に車を止めれば2階の施設には階段など使わず直接行けるメリットもあります。2階建てはコストがかかると聞きますが、浸水被害が想定される際の避難場所としても活用できると思います。</p>	<p>新たな施設は今後最低でも50年間利用されるもので、すべての市民に開かれたものであることはもちろんですが、これから生きる若い人たちにとって、記憶に残る、また末永く愛着を持ってもらえる施設となることを目指しています。機能一辺倒ではなく、意匠と機能のバランスが取れた、心地よい空間とすることが重要と考えています。2階を自走式の駐車場にするということは、ほぼ意匠面を犠牲にすることとなり、さらに外構整備に否定的なご意見のようですから、かなり機能本位の施設整備になると思われます。また2階を駐車場とすることは、建物の構造計画に大きな影響があり、かなりの費用の増額につながります。1階部分をピロティにし、駐車場とする案も検討しましたが、30台程度で2億円以上の事業費増と見込まれたため、不採用とした経緯があります。参考までにアルファビゼンの不動産鑑定評価額は建物・土地を併せるとマイナス評価になりますが、土地(約4,500㎡)だけであると1億2,600万円ほどです。こうしたこともふまえ、周辺での低利用地の活用を検討しています。</p>
7-6	<p>P10～12 A案</p> <p>車寄せ式のバス停に（雨に濡れないで乗り込めるように）</p> <p>バス停の場所は、屋内広場が待合所を兼ねる場所なるようにして、雨天時に濡れないで乗り込めるような形にしてはと思います。バスの本数が少ないので、市役所の2階で時間をつぶしたりしているというある方の話を聞きました。図書館機能も持てるようにすれば、なお待合所としても憩える場になると思います。建物をバス停の所までずらすことで広場を大きくとることもできると思います。</p>	<p>基本構想の3案ではいずれもバス停、待合に屋根を設けるか、建物の一部に取り込む計画としています。基本設計においても、この方針は踏襲したいと考えています。</p> <p>図書館機能については2-1を参照してください。</p>
7-7	<p>P10～12 A案</p> <p>建物を端に移動し広場を最大限に、可能な「備前ドーム」を</p>	<p>広場を中心とした施設整備は、本構想で目指している姿です。</p> <p>屋根下広場を活用していただくことで、雨天</p>

	<p>広場は広く取り、ゲートボールやグランドゴルフ、夏の盆踊りもできる広場にしたい方が活用されるのではと思います。建物をバス停に近接するように移動すれば、広場も十分な活用が可能になると思います。午前中は地域の高齢者が活用し、学校の放課後は学生が活用する。活用頻度が多いと施設の有効活用のアイデアも多く集まり、地域活性が進むと思います。そして、広く取れた場所を「備前ドーム」にして、イベントに活用してはと思います。片上地区のランドマーク的建物であった「アルファビゼン」が特徴ある「備前ドーム」として再開発されれば、「片上ひなめぐり」「チョイヤサ」「片上古道アート散歩」などにより活性化させていけるとと思います。</p>	<p>時においても屋外でイベントが開催できる機能を提案しています。</p>
7-8	<p>P10～12 A案</p> <p>イベント広場に屋根下広場が面しているのはとてもいいと思います。チョイヤサのイベントの時に緑陽高校のブラスバンド演奏がありましたが、雨天時は断念せざるを得ませんでした。屋根下広場があれば、雨天時にも演奏してもらえます。（「備前ドーム」が無理であれば大変有効）</p>	
7-9	<p>P10～12 A案</p> <p>イベント広場からバス停まで屋根下広場・屋内広場が繋がって複数の施設をつなぐ構成はとてもいいと思います。そのスペースが開放的に利用されれば、かつて商店街にアーケードがあった頃を思い出します。雨風がしのげれば、バスの待合や電車の待合にも利用されるようになると思います。</p>	<p>利用者にとって快適で利便性の高い施設となるよう基本設計で検討してまいります。</p>
7-10	<p>P10～12 A案</p> <p>3階を無くし、2階の屋根を使う形に 3階の展望スペースは、2階の屋根を使う形にすれば、コストも低く抑えられるのではないのでしょうか。展望が望めるのは現在のビルのように6階から眺めれば眺望もいいでしょうが、3階ではそれほど期待できないと思います。周りの景色としては、真光寺の三</p>	<p>参考とさせていただきます。</p>

	<p>重塔や茶臼山を見渡す感じなのではと思います。三密を避ける必要が出てきた昨今、屋上ビアガーデンなどの利用もイベント時などには可能だと思います。</p>	
7-11	<p>P10～12 A案</p> <p>調理実習室と和室を2階に</p> <p>防災機能としての利用価値を高めるために、高潮などで浸水被害が想定されるとき避難所・炊き出しができる施設として、2階に調理ができる施設を作るようにしてほしいと思います。7-5であげたように自走式の駐車場を設ければ、2階であっても利用しやすい施設となると思います。(研修室・学習室は1階に)</p>	<p>防災機能については4-4、6-4を参照してください。</p> <p>また、導入する機能と設置階の決定については、本パブリックコメントで頂いたご意見も参考とし、基本設計の検討をすすめる中で、利用目的に応じて配置することとなります。</p>
7-12	<p>P10～12 A案</p> <p>図書館として蔵書は少なくとも予約貸し出しなどができるIT化された図書館を</p> <p>図書館について、この施設に作ることは考えていないと聞いていますが、東洋大学の報告書にある「街づくりの一部として図書館を配置」という方向で、検討を重ねて欲しいと思います。これからの図書館として蔵書は少なくとも予約貸し出しなどができるIT化された図書館も考えられると思います。緑陽高校生や片上高校生、自転車通学の備前中学生が利用しやすい場所になれば、高齢化が進む備前も活気が取り戻せます。「学校図書館との統合」や「個人がカフェバー付きの図書室を起業」というアイデアが記載されていました。片上商店街の「瀉の家」にはたくさんの本があって、そういった場所とも連携した形で、考えて欲しいと思います。</p>	<p>2-1を参照してください。</p>
7-13	<p>P10～12 A案</p> <p>植栽の管理は大変なので、最低限に</p> <p>緑は片上地区にも多くあります。茶臼山や真光寺、葛坂のお夏茶屋跡などを整備して、アルファ跡地は市民センターの周りの植栽程度でグラウンド的に利用される施設整備</p>	<p>4-5及び7-5の前半を参照してください。</p>

	を希望します。その方が、施設管理の経費も節約できると思います。	
8-1	活用の基本理念について かかげる方針は種々ありますが、あの場所、あのスケールの中での味付は限られます。 (大きな風呂敷包みは余りにも重過ぎます)	限られたスペースの中で実現できることに制約はありますが、基本理念、基本方針をふまえ、これまでに頂いたご意見を参考に、導入する機能を選択したいと考えています。
8-2	敷地の状況の中解体して、再建築への構造的（土木を含む）基本方針の立案は出来ますか。提示してください。	基本構想で示しております3案は、いずれも建築的に成立することを前提に作成しています。この際構造検討は既存資料をもとに、設計事務所の構造設計担当により、実績、類似例などをふまえ監修されています。基本構想では上部構造が定まっていないので、詳細は基本設計で対応することになります。 また現有建物の解体時の安定性に関して云えば、地下構造の全撤去は大掛かりな仮設工作物を必要とし、周辺道路の規制、周辺地盤への影響などを勘案すると、ほぼ実施は不可能と判断しています。したがって、敷地外周の遮水と土留を兼ねた地中壁、地下1・2階の床板等を中心に存置することとしています。また解体の手順、仮設工作物の配置は、先述の地中壁の安定性に関連することから、これも基本設計で詳細を検討することとしています。 なお、現時点で特に特別な地質・地形や、配慮すべき構造的な特性はありません。「構造的な基本方針」というものは作成していません。
8-3	P8, 10 人が「つどう」とは人動がある。車でしか他方面の方々はこれない。駐車場台数をいかに多くとれるか。片上地区の人々は、そののみ心配である。（緑化など次のことです）	1-3、2-4、5-2及び7-5を参照して下さい。
8-4	P4 この地形の歴史、片上の歴史を振り返れば、柵原からの物の流通、片上湾へのつながりです。今人が動いているのは、その鉄道の跡地の「サイクリングロード」の来訪者です。それを日生へと繋げてゆく県の「サイクリングロード」の構想とあいまじえます。	4-2で述べたとおりです。かけがえのない地域資源である「片上ロマン街道」とおした交流は、地域の賑わいを取り戻す一助になると考えます。サイクリストの拠点となる施設整備を目指しています。

8-5	<p>企画された執行部、プレゼンの業者は「何であるか」解っておられる！ 基本的に肉付けすれば1つの案が発生すると思います。（プロポーザルにて指名した意図が殺れます）</p>	<p>基本設計では、必ずしも基本構想の3案を1案に絞るということではなく、パブリックコメント等をふまえて再構成し、最終案に仕上げる場合もあります。</p>
8-6	<p>片上地区のものの思いは1つ、この長期の停滞は何であったのか！ 執行部の特に副市長は十二分に解って居られる。進めるべきか。新型コロナのこの未曾有の社会構成はどうなるか。その時どれを優先させるのか、市民、特に備前の企業の各位は現時点での良策はなんであるか、期待しています!!（待てか。進めるか。）</p>	<p>1-1、7-5を参照してください。</p>
9-1	<p>P20 事業スケジュール（工事入札4～7月）について</p> <p>ワイロ、談合入札の逮捕事件が多いのが、市長選挙直前の大型公共事業に関する入札であると社会メディアに基本構想資料を送付後の回答です、別件で談合工事（公共事業）タレ込みが備前市役所にありました。</p>	<p>申し訳ありません。お答えのしようがありません。</p>
9-2	<p>基本構想策定の趣旨について</p> <p>委任状か何か持っているんですか？ 片上まちづくりの方々は？ アルファビゼンについて片上市民は委任状を書いた記憶がありません。片上まちづくりのメンバーは。（市議会議員ではありません。）</p>	<p>市では常時多様な個人、団体からご要望を伺っています。要望活動に際して、地域内でのオーソライズの要否、その手法は各団体で対応されていると考えます。</p>
9-3	<p>P8～18</p> <p>バカですか？ 駐車スペースが全然ない。（A～C案）周辺駐車禁止です。</p>	<p>1-3、2-4、5-2及び7-5を参照して下さい。</p>
9-4	<p>P6 基本方針5つについて</p> <p>災害に強く防災機能を有する施設</p> <p>「何も知りません」意見交換での施設建設・再編課スタッフの南海トラフ地震の政府予測の質問後の一言です。ふざけるな！ こんなスタッフが考えた基本構想納得できません。</p>	<p>ご意見の趣旨を把握しかねますが、防災機能に関しては、4-4、6-4を参照してください。</p>

《 参 考 》

回答様式の中で選択式の意見欄を設けておりましたので、回答内容を参考に掲載いたします。

1. 必要と考える機能（原則上位2つを回答）

多目的ホール	ミーティングルーム	レストルーム
2	1	1
サイクルステーション	カフェ（飲食）	自習・読書室
4	2	3
<その他の回答> ・駐車場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2件 ・隣接する駐車場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1件 ・駐車スペース200台・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1件 ・イベント広場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1件 ・一部屋根付屋外広場（駐車場となり得る）・・・・・・・・・・・・ 1件 ・そのまま利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1件		

2. 最もイメージに近い案（上位1つを回答）※回答があったもののみ

A案	B案	C案
4	0	0

以上

1. 庁舎移転（案）比較検討の概略

	規模（対象延べ面積）	工事費	年間維持管理費
現庁舎耐震改修	4階（6,871㎡）	11億6,025万円	3,200万円
庁舎新築	4階（6,530㎡）	22億円	3,100万円
アルファビゼン改修	7階地下1階（14,581㎡）	10億8,420万円	9,800万円
アルファビゼン改修 ＋図書館整備	7階地下1階（21,480㎡）	14億4,720万円	
アルファビゼン改修 ＋図書館等整備	7階地下1階（18,510㎡）	19億6,236万円	

（※平成28年4月21日山陽新聞で同様の記事が掲載されています。）

2. 地元要望（要約）

①令和元年5月30日 片上まちづくり会議

- ・集会施設（公民館、ホール等）の建設
- ・かまどベンチなどの防災機能を併せ持つ市民公園の建設
- ・民間業者による集合住宅の誘致

（※令和元年5月31日山陽新聞で関係の記事が掲載されています。）

②令和元年7月4日 片上自治会協議会

- ・公共性が高く、安定した利用が見込まれる独立した地区公民館の建設
- ・憩いの場となり、家屋密集地の緑化にも寄与する防災機能を備えた公園の建設